

—Rubyを使ったビジネスって、東京でも増えているのでしょうか？

鎌田社長：ええ。徐々に東京でも増えてきた実感があります。納入した一括請負サービスの中にも、Rubyを用いたものがありますよ。

—東京と島根という2拠点でやっていこうと思われたきっかけは何でしょう？そして地元に対して抱いている思いをぜひ聞きたいと思います！

鎌田社長：実は、島根で起業してしばらく、案件が少なく、これは東京に仕事を取りに行くしかないと感じ、徐々に東京での仕事が増えてきた結果、支社を構えることができたという感じです。最初から東京にも出そうと考えていた訳ではないのですよ。

地元への思いですか。今まで自治体としての島根県にサポートして頂いてきました。その恩返しをするならば、何だろうと考えると、やはり雇用の創出かなと。ITの仕事をしたい若者が、地元で働ける環境を提供することで、地元へ貢献できたと思っています。また、東京の仕事が多くこなして行く事で、島根の社員の技術力を磨き、技術者数を増やし、ビジネスを島根を中心とした西日本の地域にも横展開していければと考えています。
(インタビュー：沼田)

オープンソースカンファレンス2012 Shimaneの開催について

今年も9月にオープンソースカンファレンス(以下、OSC)を島根で開催します。

今年はまだ開催してきたOSCと趣向を変え、県内の技術者や利用者を中心にセミナーを行い、普段発表の機会が少ない方が積極的に参加して頂けるような内容を企画しています。

発表の時間を多少短めに設定し、自分の意見を人前で発表することの楽しさを一人でも多くの方に感じて頂くとともに、同じ目的や思いを持った県内の技術者の交流の場を一つでも多く設けたいと考えております。詳しい内容は詳細が決まり次第、Webサイトなどを通じて公開していきますので、みなさま是非ご参加いただければと思います。
(きむら)

OpenOffice.org講習会について

便利で、簡単！誰もが使えるOpenOffice.org

OpenOffice.org講習会

参加費無料



各月で開催しているOpenOffice.org講習会が、4月で3年目を迎えます。様々な方のご支援を得ながら、これまでに11回開催し、受講生が累計130名を超えました。ただ、とてもしピータの多い講習会であるため、受講生130名のうち重複して出席しておられる方がおられることから、実際の参加者は50名程度かもしれません。講習会の内容は、Writer、Calc、Impressの入門編に加え、Calc初級編の4コースを順番に開催しており、どれか一つに参加された方の多くが引き続き4つのコースを受講されています。

開始当初はなかなか参加者が集まらなかったのですが、今では市報に掲載された途端に参加申し込みが急増し、PCの貸し出し数の関係から参加希望をお断りしなくてはならなくなるほどの盛況ぶりとなっています。

もし、興味のある方がおられましたら、まわりの人にもお声かけ頂き、みなさま一緒にご参加下さい。
(きむら)

編集後記



最近、オープンソースのCGソフトBlenderでイラストを描く機会がありました。3DCGの勉強になり楽しかったです。Inkscapeで作成した画像も利用できるの、興味のある方はお試しください。
(加藤)

このニュースレターはOpenOffice.orgで作られています。

松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト2012について



今年で4回目の開催となった、ビジネスプランコンテストには、過去最多となる76(ビジネス部門16、学生60)名の応募をいただきました。

ビジネス部門では、過去2回最終審査会で惜しくも最優秀賞を逃してこられた高田良佳さん見事にリベンジを果たし、「まんがじん」で最優秀賞を獲得されました。「あの漫画の続きが読める！」というこのサービスは是非実現して欲しいです！そして、非常にレベルが高かった学生部門では、松江高専の岩成さんが最優秀賞を獲得。他の学生さんの発表も、審査員の皆さん脱帽もプレゼン力で会場を沸かせてくださいました。

また、今回から、協議会会員企業の皆様にも協力を得て、気に入ったプランに「いいね！」札を上げてもらう新しい取り組みを始めました。会員企業の皆様と、ビジネスプランのマッチングの場になるよう、今後も継続をしていきたいと考えています。
(福田)

Ruby合宿2012春

2012年2月20日(月)から2月24日(金)の5日間、県立青少年の家(サン・レイク)にて「Ruby合宿2012春」を開催しました。

全国から39名を超える応募があり、北は北海道、南は沖縄までの選ばれし28名が、このRubyの聖地島根に大集合しました。Rubyについての基本を短時間に凝縮して学んだ後、5班に別れてそれぞれプログラミングを開始します。覚えてたのRubyとアイデア、チームワーク、そして根性を駆使して「シューティングゲーム」を構築していきます。

最終日の発表会では、ストーリー重視系、ビジュアル系、弾幕系など、とても素人とは思えない出来栄の作品を披露して観客を圧倒しました。余裕さえ感じさせるその笑顔からサラッと出てきた「徹夜しました」という言葉がとても印象的でした。
(倉橋)

オープンソースサロン開催報告



■ 第63回オープンソースサロン(2011年12月9日(金))

2011年最後のサロンは、クックパッド株式会社の館野祐一氏と井原正博氏にお越しいただきました。館野氏は「好きを仕事に」というテーマで、井原氏は「クックパッドのつくりかた」というテーマでお話いただきました。おふたりの話を聞いて、クックパッド社のサービスがたくさんの人々に利用されるのは、人々を幸せにしたいと思うスタッフがクックパッド社に集まっているからなのだなと感じました。

続いて、当協議会サポーター会員のきむらしのぶさんが「困ったときのInkscape頼み」と題して、グラフィックソフト「Inkscape(インクスケープ)」の使い方について発表されました。Inkscapeはオープンソースソフトウェアとして公開されていますので、皆様もぜひ一度お試し下さい。

サロンの後は毎年恒例の忘年会でした。多数の方に参加していただき大いに盛り上がりしました。

■ 第64回オープンソースサロン(2012年1月13日(金))

2012年最初のサロンは、まず始めに「松江商業高校2011年活動報告」と題して松江商業高校の伊藤伸氏と片寄千里氏に発表していただきました。伊藤氏は、2011年に開催された「中高生国際Rubyプログラムコンテスト」のU-18部門で最優秀賞を受賞されました。今回のサロンでは受賞作品である「BooBooアクション」について発表していただきました。また、片寄氏は「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト2011」の学生部門において最優秀賞を受賞されました。今回のサロンでは受賞されたプラン「心に響く only your hands」について発表していただきました。

続いて「高圧縮・高セキュリティ対応木構造暗号化ツールの実装と適用(3次元カラーバーコードシステム活用への取組み)」と題して、株式会社テクノプロジェクトの相田範夫氏と永岡和子氏にお話いただきました。島根大学の研究と地元企業であるテクノプロジェクト社の産学連携の事例であり、Rubyの開発事例でもあり、今後の展開に期待が高まります。

■ 第65回オープンソースサロン(2012年3月9日(金))

第65回オープンソースサロンでは、「オープンソースライセンス研究所各社のOSSに対する取組み」と題して、(株)オービス総研の山口健氏、(株)廣告社ぶれいんの湯澤一比古氏、(株)ゼンクの増田芳憲氏、(株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリーの筒井敏人氏にお越しいただき、各社の取組みについて発表していただきました。質疑応答では、島根県、松江市、徳島県の取組みを発表されるという一幕もあり、今後のOSSの取組みについて活発な意見交換が行われました。

オープンソースサロンは毎月1回のペースで開催しています。開催日程はしまねOSS協議会のウェブサイトにて随時掲載しています。参加の事前の申し込みは必要ありません。当日会場まで御気軽にお越しください。ご来場をお待ちしております。(黒谷)

会員企業紹介(第8回)

株式会社プロビズモ

代表取締役社長 鎌田大輔 様

代表取締役副社長 浅田信博 様

■ 島根ニアショア開発で、しまねの産業を創出したい

扉を開けると、全面ホワイトカラーの受付ルームに電話機が置いてあります。ハリウッドの近未来映画に出てきそうな風景。電話機を取ると、受付につながるようです。受話器越しに挨拶をすると、扉の鍵が解除される機械音がしました。頭の中で「ミッション・インポッシブル」が鳴り出しました。通されたお部屋も、これまた近未来的。おおお。テレビ会議用ディスプレイ・・・。おおお。大きい。

ーこんにちは。設立10周年、おめでとうございます。この10年間、御社にとってはどのような10年でしたか？

鎌田社長：いろいろなことを勉強させてもらった10年と言えます。会社の創立、島根から東京へシェアを求めて飛び込んだ日、株式上場やリーマンショックなど、さまざまなことを体験し、やってみたという感覚でいます。

浅田副社長：会社設立時、従業員3人で始め、現在は100名になりました。現在に至るまで、こうした出来事を、常に従業員と一緒に経験してきました。

鎌田社長：特にリーマンショックの頃は、東京で影響が大きく、元請の内製化が増え、それまで当社の主流であった派遣案件が減って、大変でした。しかしそれまでに拠点を島根と東京に確立できていたことや資本のやりくりで、何とかしのいできました。

浅田副社長：当社の島根モデル(地域分散開発 島根ニアショア開発)が大きな強みです。現在、島根本社に40人、東京に60人の従業員を配置しています。大きなマーケットである東京では、企画から設計までの工程を顧客先で行い、プログラム開発やテストを島根で行います。上流開発を東京で行うことにより、ユーザーのニーズにきめ細かく対応でき、島根でプログラム開発をすることにより、初期コストを抑えることができます。

鎌田社長：オフショア開発では難しい濃密なコミュニケーション、きめの細かい保守、長期的なシステムサービスができる点が、この島根ニアショア開発のメリットです。こうした島根モデルの確立により、徐々に一括請負開発、運用保守の受注案件が増えてきました。

ーお話を伺うと、貴社の案件の質から、OSSを利用される場面は多いと想像するのですが、いかがでしょうか？

鎌田社長：そうですね。顧客の業務スタイルや、提供するサービスの構築方式によって、その時一番マッチしたOSSを利用します。当然Rubyもその選択肢の一つですが、ユーザーや元請の意向や現有資産の再利用など様々な要因によって適した構築スタイルがあり、利用する言語やフレームワークが違ってきます。



(鎌田社長:写真左 浅田副社長:写真右)



〒693-0008
島根県出雲市駅南町2-3-1
エイコー駅南ビル5F
電話番号 0853-25-0018
FAX番号 0853-25-0035
URL <http://www.probizmo.co.jp/>

2001年5月株式会社エフテックとして設立。2003年に東京支社を新設し、2007年に現在の株式会社プロビズモに商号変更。社名はプロ集団(プロフェッショナル)+出雲の意味が込められ、地元愛が感じられる。2006年9月セキュリティアプライアンス「鍵掛峠」販売開始販売。2009年から教育機関向けソリューション事業を開始し、研究者データベース「ReaP」、教務・学事支援「教務手帳」を発表。秘書業務支援システムは、業界シェアトップ。